

47 練馬の魅力づくりと練馬ならではの観光の推進

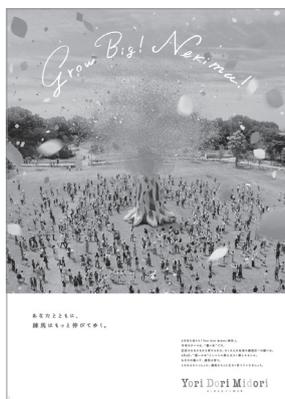
(1) 広報キャンペーンの展開

●広報キャンペーン「よりどりみどり練馬」の実施

27年3月からみどり豊かな練馬区の魅力を全国に発信する広報キャンペーン「よりどりみどり練馬」を実施している。

28年度は“願いの木”をテーマに区民から「未来の練馬区がこうなったらいいな」という願いを募集し、約6,000点もの願いが寄せられた。その願いを含む約100万枚の葉っぱを利用した「願いの木」をつくるCMも1,000人以上の区民とともに制作した。木の幹の上に地上高く葉っぱを舞い上がらせて創った一瞬しか見ることのできない巨大な願いの木の出現に、会場が多くの笑顔に包まれた。このCMは、地上波テレビのほか鉄道駅、映画館で放映するなど、戦略的に広報を展開した。

また、50名以上の区民が「よりどりみどり練馬公式PRサポーター」となり、フェイスブックを活用して練馬区の魅力を発信している。



〔広報キャンペーン「よりどりみどり練馬」ポスター〕

(2) 「練馬ならではの観光」の推進

練馬区は観光都市のように経済効果を期待できる観光資源が多く存在するわけではない。

しかし、日常の中にきらりと光る特色ある資源や、これまで育まれてきた伝統や文化がある。これらを磨き価値を高めることにより、区民の誇りや愛着につなげていくため、練馬区の魅力を広く発信していく必要がある。

●練馬の魅力を体感できる仕組みづくり

1 とっておきの練馬プロジェクト

28年3月から、新たに、「練馬ならではの観光」を

推進するため、『区民目線による練馬の魅力』の情報を集め、多様な方法で発信する取組を実施している。

(1) とっておきの練馬の魅力大募集

1年間を通じて、四季折々の練馬の魅力（見どころ、自然、食べ物、イベントなど）の情報を区民から募集した。投稿の募集は、28年3月1日から29年2月28日まで行った（投稿件数：約2,800点）。

(2) 投稿を活用した関連イベント

投稿情報を写真展、ウォークイベントなどに活用した。西武鉄道株式会社と共催したウォークイベントでは累計5千名を超える参加者で賑わった。

2 石神井観光案内所の設置

29年3月1日、西武池袋線石神井公園駅前に区内2か所目の観光案内所を設置した。

石神井地域ならではの旬の地域情報の発信や、商品販売を特色として事業開始した。なお、29年度以降の運営は、(一社)練馬区産業振興公社が担う。

●(一社)練馬区産業振興公社との連携・支援

地域で育まれた文化や資源、区民等が生み出す新しい価値を磨き、効果的に発信する「練馬ならではの観光」を推進するため、練馬区産業振興公社等との連携を進める。

29年度以降、練馬区産業振興公社内「ねりま観光センター」にて、民間ならではの柔軟な発想・ノウハウを活用し、観光事業の充実を図る。

なお、区は、「ねりま観光センター」による様々な取組について、事業費および運営費の補助を行っている。

(3) 練馬の魅力を感じるイベントづくり

区民や区外からの来場者が参加・交流し、練馬の魅力を実感できる機会を創るため、区の2大まつりである練馬まつり・照姫まつりを開催した。

●第39回練馬まつり

としまえん会場を中心とした出展やステージイベントのほか、練馬産業見本市など、多様なイベントを同時開催した。

①主催 練馬まつり推進協議会

②開催日 28年10月16日(日)

- ③会場 としまえん
 ④内容 ステージ、各種出店・展示、子ども体験コーナー
 ⑤来場者 35,000人
 ⑥その他 以下のイベントを同時開催した。

- ・としまえん会場：
練馬産業見本市、ねりま・エコスタイルフェア、健康フェスティバル
- ・練馬駅北口周辺会場（開催日 10月15、16日）：
練馬アニメカーニバル、文化事業、商店会との連携事業



〔練馬まつりポスター〕

●第29回 照姫まつり

区民など約100名が参加する豪華絢爛な照姫行列に加え、区と友好都市である長野県上田市との連携イベントを実施した。

- ①主催 照姫まつり推進協議会
 ②開催日 28年5月29日（日）
 ③会場 都立石神井公園およびその周辺
 ④内容 照姫行列・出陣式・帰還式、ステージ、出店・展示・子ども体験コーナー
 ⑤出場者 13万人
 ⑥その他 友好都市長野県上田市と連携（甲冑隊、陣太鼓、物産品販売など）



〔照姫まつりポスター〕

(4) 風を感じるまちづくり

●散策しやすいまちづくり

区では、都市計画道路や生活幹線道路などの新設や整備済路線の改修に当たり、バリアフリー化を図るとともに地域の景観に配慮して緑化、無電柱化、街路灯などの施設整備により道路の質の向上を図り、安全・安心で散策しやすいまちづくりを進めている。

特に、現在、自転車に関する交通事故の増加や自転車利用者のルール・マナー違反等により、自転車と歩行者を分離した自転車走行環境の整備が求められ適した導入方法の検討を行っている。そこで、都市計画道路の整備にあわせて、自転車レーン等の設置を進めている。

●シェアサイクルの導入に向けた取組

複数のサイクルポート間で貸出・返却ができるシェアサイクルは、短時間・短距離の移動や来街者の自転車散策に適した公共交通手段として、他自治体での導入が進んでいる。

そこで、区では、区における利用需要や、事業効果等について具体的に検証するため、29年度から社会実験を実施し、事業の継続性や事業手法について検討する。

